

「ながらスマホ」の危険性

歩行中や自動車・自転車などの運転中にスマートフォンを操作することを「ながらスマホ」といいます。スマートフォンの普及に伴い、「ながらスマホ」が原因となった事故やトラブルが増えており、大きな問題となっています。

「ながらスマホ」はどのような事故・トラブルを引き起こすのか

子どもたちが注意なくとはいけないのが、歩行中や自転車の運転中の「ながらスマホ」です。では、歩行中や自転車の運転中にスマートフォンを操作していると、どのような事故やトラブルを引き起こすことがあるのでしょうか。実際に起きた事故やトラブルとしては、以下のようなものがあげられます。

- ・人や物にぶつかった
- ・赤信号になったことに気づかず横断歩道を渡り、車と接触した
- ・足を踏み外して階段から転落した
- ・駅のホームから転落した
- ・用水路に転落した
- ・ひったくりの被害にあった
- ・知らない人にあとをつけられた
- ・歩行者とぶつかり、大きなけがを負わせてしまった

「ながらスマホ」に対して反感を抱く人は多く、中には、駅のホームや街中などで、歩きながらスマートフォンを操作している人を探してわざとぶつかり、けがをさせたり因縁をつけたりする人もいます。



スマートフォンを操作していると視野がせまくなり、注意力が散漫になります。また片手がふさがっているため、転倒しても受け身がとれなかったり、自転車のブレーキがかけられなかったりすることがあるため、大きな事故に発展する可能性があります。

街中に出ると、「ながらスマホ」をしている人をよく見かけるため、「みんなやってるし、大丈夫だろう」と考えて、「ながらスマホ」をしてしまう子どもたちもいるかもしれません。しかし、「ながらスマホ」は自分だけでなく、周囲の人たちまで危険にさらす可能性があります。そのことを子どもたちに理解させ、歩行中や自転車の運転中にスマートフォンを使いたくなったときは、周りの人たちの邪魔にならない場所に立ち止まって操作するよう、指導していくことが大切です。